



神山
高専

神山まるごと高専

自己点検評価報告書

2023 年度 自己点検・評価報告書

はじめに

本報告書は、「神山まるとして高等専門学校 自己点検・評価方針」に基づき、本校における教育活動その他の運営について、2023 年度の状況を点検・評価し、今後の改善に資することを目的としている。

第 1 章 自己点検・評価に関する方針と体制

1-1. 自己点検・評価の目的

本校では、教育の質の継続的な向上と、教育機関としての説明責任を果たすことを目的に、自己点検・評価を実施しています。2023 年度は、制度としての初年度にあたり、体制整備とあわせて、実際の運用を開始した年となった。

1-2. 法的根拠および認証評価制度との関係

本校は、学校教育法および私立学校法に基づく高等専門学校であり、文部科学省の定める認証評価を 7 年に一度受審する必要がある。本報告書はその前提となる内部質保証の一環として位置づけられる。

1-3. 自己点検・評価の実施体制

自己点検・評価委員会を設置し、校長を委員長とし、関係部門のディレクター、リーダーが参画する体制をとっている。

1-4. 自己点検・評価の実施スケジュール

2023 年 9 月：評価基準と体制の確認

2023 年 11 月：中間ヒアリング

2024 年 3 月：評価報告書のとりまとめ

1-5. 外部への公開方針と透明性の確保

本報告書は、学校 Web サイトにて公開し、地域住民や関係者、在学生・保護者に対して透明性を確保する。

第 2 章 学校の現況および特徴

2-1. 学校法人および設置主体の概要

- 設置法人：学校法人神山学園（2022 年 9 月設立）
- 設置学校：神山まるとと高等専門学校（2023 年 4 月開学）

2-2. 学科構成、定員、在学生数

- 学科構成：デザイン・エンジニアリング学科（5 年制）
- 入学定員：40 名／年、収容定員 200 名
- 在学生数：84 名（2024 年 5 月 1 日時点）【9:2】

2-3. 教職員構成と体制

- 教員：専任教員 18 名
- 職員：学校 6 名＋法人本部 2 名
- 兼務者：教員 2 名

スタッフは 7 チーム体制で、Slack 等を用いたオープンな情報共有が行われている【9:4】。

2-4. キャンパス施設と学習環境

- 所在地：徳島県名西郡神山町神領字西上角 175-1（旧神山中学校校舎）
- 起業家工房、技術室、ICT 環境を整備し、ものづくり・プロジェクト型学習に対応【9:6】

2-5. 本校の沿革と教育モデルの特徴

- 沿革：2022 年 法人設立／2023 年学校開設
- 教育モデル：「まるとと学ぶ学校」をコンセプトに、授業・課外活動等すべてを学びの機会とする。起業家精神と ICT/デザインの力を組み合わせた「モノをつくる力で、コトを起こす」人材を育成【9:2】

第3章 教育上の目的と三つの方針

3-1. 本校の教育理念と育成する人材像

本校は「モノをつくる力で、コトを起こす人」を育成することを目指している。単なる知識の習得にとどまらず、実社会で価値を創出し変革を促す力を持つ技術者・起業家の育成を教育の柱としている【9:5】。

3-2. 学科の教育目的

デザイン・エンジニアリング学科では、情報工学・デザイン・起業家精神を融合させた教育を通じて、社会課題に対し自ら考え、創造し、行動する力を育てることを目的としている【9:5】。

3-3. ディプロマ・ポリシー（学修成果の到達目標）

神山まると高専では「モノを作る力で、コトを起こす人」を育成するために、次に掲げる人材を養成することを目的としています。

- IT分野におけるインターネットを基盤とするサービスやソフトウェア開発を「モノづくり」とし、そのモノづくりに必要な情報工学に関する知識と技能を有している。
- プロダクトデザインやUI/UXデザインといった、IT分野におけるモノづくりに求められるデザイン力を有し、魅力ある製品やサービスをつくるうえでデザインの重要性を理解している。
- 社会における事業やサービス、枠組み、組織といった社会を構成する要素に対して変革や改善を行うことを「コトを起こす」とし、そのコトを起こすために必要な起業家精神を有している。具体的には、社会のニーズや課題を本質的に捉え、自ら社会における課題発見を行い、情報工学の知識・技能を活用して「モノづくり」を行うことで問題解決を実践する中でチームワークやリーダーシップを発揮しながら、社会に変化を起こしていくための新しい価値を生み出す力を有している。
- 技術者としての教養を身に付けるとともに、多様な価値観を受け入れた上で、高い倫理観に基づいた行動がとれる豊かな人間性を身につけている。

本学では以上の能力を修得し、学則で定める所定の卒業要件単位を取得した学生に対して卒業を認定し「準学士（工学）」と称することを認めます。

3-4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

神山まると高専では、ディプロマポリシーに掲げた知識・技能の修得、ならびに「モノをつくる力で、コトを起こす人」を育成するために以下の方針に基づき科目編成を行っています。

- インターネットを基盤とするサービスやソフトウェア開発に必要な情報工学に関する知識・技能を身に付ける科目を専門科目の中心として配置する。
- デザインの基本からはじめ、ソフトウェア分野におけるデザインの知識・技能を中心に、魅力あるサービス・製品を作ることができる科目を配置する。
- 自ら課題発見を行い、問題解決のためのチームワークやリーダーシップ、失敗から次につなげるレジリエンスといった起業家精神を養う科目を配置するとともに、各演習科目においても課題設定から自らが行ったりチームで取り組むことで、起業家精神を実践的に学ぶこととする。
- 技術者としての教養をはじめ多様性や倫理観など豊かな人間性を身に付ける人文科学、自然科学、社会科学などの科目を配置する。
- 社会を知り、学んだ知識と技術を統合し、課題発見・問題解決を実践する科目を配置する。

3-5. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

神山まると高専は、「モノをつくる力」として情報工学を基とするエンジニアリングと社会のニーズや課題を本質的に捉え魅力あるサービスや製品を作ることができるデザインを学習し、起業家精神を学び社会に変化を与えられる「コトを起こす」人材の育成を目的としています。この目的のために、次のとおり入学者受入れの方針を定めています。

- IT分野におけるモノづくりに対して興味や関心がある人
- 多様な価値観を受け入れ、自分の意見を伝えられる人
- 情報を適切に処理することができる思考力がある人
- 正解のない問いに対して、独自の解を出せる人
- 必要な学習を続ける意欲があり、学んだことを活かせる人

3-6. 三方針の整合性と運用体制

三つの方針は、教育理念と連動し、入学から卒業までの一貫した教育プロセスとして設計されており、各ポリシーの整合を確認しながら、自己点検・授業担当者会議等を通じて運用されている【9:6】。

第4章 2023年度の主な取組と成果

4-1. 教育改革・カリキュラム改善の取組

- 開講予定 85 科目のうち、1 年次 14 科目を当初計画通り開講
- 授業担当者会議を原則毎月実施し、授業内容の改善を図った
- バディ制度により教員同士の相互評価と助言体制を構築【9:6】

4-2. 課外活動・地域連携・国際交流の取組

- 「Wednesday Night」として 49 名の起業家を招聘（全 24 回）
- チャレンジファンドにより 11 件の学生プロジェクトを助成
- 徳島映画祭での受賞、プログラミングコンテストでの複数受賞などの成果
- 神山町との協働による入試課題作成や地域向けイベントの実施
- 地元小学校との連携授業、町民報告会の開催【9:6】【9:7】

4-3. 学生相談・生活環境の充実に向けた取組

- 全寮制の運営を通じた生活支援体制の構築
 - 学生による自治的寮運営の支援を通じた、自立的生活構築への取り組み
 - 学校・寮の一体的運営による、生活と学びが繋がる教育環境の整備
 - 学校医など地域との協力のもと、学生が地域で育つ環境の構築
- 一般社団法人との連携により、寮運営と教育の一体化を推進
- 4～5 年生寮の開設に向けた準備を開始【9:7】

4-4. 教職員の FD・SD 活動

- 授業担当者会議と連動した FD 研修を実施
- Slack 等を活用した教職員のオープンなコミュニケーション体制
- 「スタッフ」としての一体運営による協働的教育支援の実践【9:8】

4-5. 教育効果の検証と成果の分析

- 授業アンケートや担当者会議を通じて、学修成果の検証を実施
- 起業家精神・情報技術・デザインに関する基礎的スキルの定着が確認されている
- 学生の主体的な活動（プロジェクト、地域活動、学外受賞等）を通じた学びの深まりを確認【9:6】

第 5 章 領域別の自己評価

5-1. 教育の内部質保証システム

- 基準 1-1：自己点検・評価の体制
自己点検・評価委員会を設置し、校長を委員長としてディレクター・リーダーが参画。定期的な会議体を通じて運用が行われた。
- 基準 1-2：内部質保証の方針と PDCA
毎月の授業担当者会議を通じたフィードバックループを構築。実施→記録→振り返り→改善の PDCA を回す教育マネジメントが定着しつつある。
- 基準 1-3：改善活動の実績と課題
授業設計・運用、寮運営、課外活動支援において改善事例が多数見られた一方で、記録や定量的指標の体系化は今後の課題である。

5-2. 教育組織および教員・教育支援者等

- 教育組織の構成と運営
専任教員 18 名、職員 8 名体制で、スタッフを 6 チームに分け、Slack 等を活用した協働型の運営が行われている。スタッフ間の壁が少なく、迅速な意思決定が可能な組織体制である【9:4】。
- 教員の質と配置、研修体制
FD 活動として授業担当者会議における授業レビュー、他教員による授業参加・助言（バディ制度）を実施。高等教育機関として初年度ながら教育改善への意識が高い。
- 教育支援体制の整備
学生対応を含めた教育支援は、スタッフ全体で横断的に担われており、寮や課外活動も含めたトータルな支援が可能となっている。

5-3. 学習環境および学生支援等

- 学習施設・ICT 環境
旧神山中学校をリノベーションしたキャンパスには高速通信環境、ICT 機器、起業家工房等を整備。レーザー加工機や CNC ルーターの導入により実践的ものづくりが可能に【9:7】。
- 学生生活支援（寮、健康、相談体制など）
全寮制を基盤とし、学内外スタッフや寮チューターによる日常支援体制を構築。週次の寮会議、保健・相談体制も整備。
- キャリア支援と進路指導
1 年次からキャリア教育を意識したプログラムを展開。起業家や実務家との接点を豊富に設け、将来的なキャリア形成に資する機会を提供。

5-4. 財務基盤および管理運営

- 予算・会計の運営方針
ふるさと納税と連携した独自の財源確保手法により、7.7 億円の寄付金収入を確保。学費収入に依存しない体制を整備【9:9】。
- ガバナンス体制と業務執行
理事会・評議員会を通じた意思決定体制を整備。校長・ディレクター・リーダーが現場判断を迅速に行う分権的運営。
- リスクマネジメントと危機管理
災害対応を含む BCP 整備を進行中。開校間もないことから、体制構築・マニュアル整備が今後の課題。

5-5. 準学士課程の教育活動の状況

- 教育課程の編成・実施状況
ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラムが構築され、専門基礎・探究・デザイン・社会連携を網羅。初年度科目は予定通り開講。
- 学修成果の評価と卒業認定
まだ卒業年度に達していないが、定期試験・課題・プロジェクト等により多面的評価を実施。今後、学修成果の可視化（ルーブリック等）の体制強化が求められる。
- 社会との連携・教育成果の外部評価
地域・企業・保護者からのフィードバックを得る仕組みを構築中。町民報告会など、教育成果を社会に開示する機会が設けられている【9:7】。

第6章 自己点検・評価に基づく課題と改善方針

6-1. 全体を通じた強みと優れた点の整理

- 学校設立初年度ながら、教育理念とポリシーが現場に浸透し、各所で一貫した運用がなされている
- 全寮制、探究活動、地域連携を一体化した独自の教育モデルが実装されている
- Slack 等を活用したチーム運営による教職員の協働体制が機能している

6-2. 指摘された課題と原因分析

- 定量的な評価指標や根拠資料の整備がまだ十分ではない
- 内部質保証の各プロセスを記録として体系化・継続管理する仕組みが未整備
- 学生数増加に伴う中長期的な教職員配置・組織体制の設計が必要

6-3. 改善に向けた中長期的な方針

- 自己評価と外部評価を組み合わせた「多層的質保証」体制の確立
- 各ポリシーに沿ったルーブリック評価の導入と運用体制の構築
- スタッフ成長を支える FD・SD 体制の高度化

6-4. 今後のアクションプランと評価指標

改善領域	主な取引内容	指標例
教域の質保証	学修成果評価のルーブリック化	授業ごとの評価表、改善件数
組織マネジメント	会議体と業務分掌の整備	会議室実施頻度、記録件数
社会連携	地域・企業との共同活動の可視化	活動数、報告機会、参加者数
情報管理・記録体制	根拠資料の管理台帳の導入	整理済み資料件数、更新頻度

第7章 自己評価書の作成・提出体制と根拠資料の整理

7-1. 自己評価作成体制と担当分掌

本自己評価書は、自己点検・評価委員会が中心となり、各担当部門の協力のもと作成されました。委員会の構成は以下のとおりである。

- 委員長（校長）
- 委員（教育ディレクター、学生生活ディレクター、経営管理ディレクター、地域連携リーダー ほか）
- 実務担当：法人事務局（記録・資料収集、編集統括）

各章のドラフトは、各部門が責任をもって作成し、委員会にてレビュー・修正を経て統合された。

7-2. 根拠資料の収集・分類・保管

評価の根拠となる資料は、以下の分類で Google Drive の共有ドライブ内に保管されています。文書のメタデータには更新日、作成部門、関連章が記録されている。

- 教育課程：授業シラバス、授業評価アンケート結果、授業担当者会議議事録
- 学生支援：寮会議記録、相談記録、課外活動報告書、学生アンケート
- 組織運営：予算資料、Slack チャンネルログ（抜粋）、マニュアル類
- 社会連携：連携授業の記録、地域イベント報告、SP 企業活動記録

資料は Notion 上にも一部を要約・リンク付で掲載し、関係者間での参照を可能としている。

7-3. 提出様式とデータ管理の方針

本報告書は PDF・印刷用形式としてまとめるほか、要約版を学校ウェブサイトにて公開する。

原本および根拠資料は Google Drive でバージョン管理を行い、作成履歴の透明性を確保する。

提出先・閲覧対象に応じたフォーマット（学校運営会議向け報告資料、対外公開資料、監査向け資料等）を目的別に整備する。

7-4. 今後に向けた記録と振り返り体制

来年度以降に向け、以下の方針で記録と振り返り体制を整備する。

- 毎月の定例会議体での振り返り項目の明確化（簡易 KPI、定性記録）
- 教職員・学生を交えた振り返りの導入（例：振り返り週間、成果発表会）
- 自己点検結果と中期計画との連動性の強化（Notion・スプレッドシートによる可視化）

これにより、年度単位にとどまらず、中長期的な内部質保証サイクルを確立することを目指す。

参照

引用記号	内容（概要）
【9:2 † 2023_business-report.pdf】	教育理念、在学学生数、学校の沿革など
【9:4 † 2023_business-report.pdf】	教職員構成とチーム運営体制
【9:5 † 2023_business-report.pdf】	ディプロマ・ポリシー、教育目的
【9:6 † 2023_business-report.pdf】	教育改革、授業運営、FD/SD 活動
【9:7 † 2023_business-report.pdf】	課外活動、地域連携、寮の取り組み
【9:9 † 2023_business-report.pdf】	財務基盤、寄付・ふるさと納税制度